



創刊
昭和42年10月10日
第146号
平成28年12月5日
能代市教育委員会
学校教育課
題字 元能代市教育長
鎌田 宏

南中生の心意気



能代南中学校長

淡路 敦夫

本校には「音翔会(いんしょうかい)」という合唱集会有る。その取組は今年で十九回目を迎え、本校の特色ある教育活動の一つとなっている。

今年の音翔会は十一月三日にたくさんさんの保護者や地域の皆さんをお招きして盛大に開催された。生徒たちは、この日のために音楽の時間を中心に朝の時間帯や部活動前のちょっとした時間など、あらゆる「すきま時間」を利用して一生懸命練習してきた。本校の生徒たちは男女を問わずよく歌う。歌うことに誇りを持っているように見える。

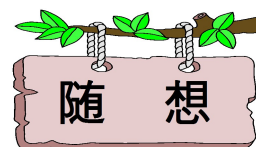
今年は盛りだくさんの内容となった。各学年合唱にプラスして3年生は学級の合唱も披露。また、お客さんと一緒に楽しむヴォーカルアンサンブルや男子は「ふるさと」、女子

は「ほたるこい」をア・カペラで歌った。ピアノ、アコーディオン、バイオリンの器楽アンサンブルも登場した。バラエティーに富んだプログラムに会場は「音を楽しむ」という言葉通りの豊かな雰囲気包まれた。

今年の目玉は全校生徒による「合唱組曲筑後川 河口」。練習に練習を重ねてきた曲だ。生徒たちが歌い終わったとき、会場は一瞬静まり、そのあと大きな拍手がわき上がった。お客さんの中には思わず立ち上がった拍手を送る方々もいた。筑後川の源流が阿蘇山に発するということで、当日はJRC委員が募金活動も行った。生徒たちは歌うことで思いを遠い九州に馳せたのだろう。そしてフィナーレは吹奏楽の演奏と全校生徒による合唱で「秋田県民歌」を歌い上

げた。

生徒会長がいさつで述べた言葉。「地域の皆さんに喜んでもらうこと



連携―宝は内に宿っている



ニツ井小学校長

佐々木 彰子

「幸せて豊かな時間でした。ニツ井小での一期一会を心に刻み、次の歩みを進めます」

豊島区教育連携事業で本校にて二週間の授業研修を終えたI先生のお別れの言葉です。

本校の研究「ユニバーサルデザイン」の授業と学級力の並行」や改善策を引き出すFWS型授業研究、OJT、授業の基本「あきたのそこちから」など、「ふたつスタイル」に

たっぶり浸り、吸収して、公開授業に挑戦されました。そして、「ふたつの子」の認知が開花して頬のハリ、ツヤ、元気が輝く瞬間に教員として立ち会う日々は、幸せと愛おしさで責任を実感する毎日だったと語られていました。「あのすばらしい子どもたちに出会い、先生方の情熱に触れたことが宝物」と語るI先生の笑顔は、同じ目的を目指す同志のようでした。

で地域を支え、地域に貢献したい」音翔会はまさに南中生の心意気である。

今、学校では、家庭・地域連携をさらに広め、多様な連携のもと、次代を担う子どもたちの大いなる可能性を引き出し育むことに取り組んでいるところです。本校の最近の連携も「キッズマート」(ニツ井町商工会青年部)、「合唱クリニック」(長野県箕輪町)など多彩で魅力的です。そして、なぜか、共に行動し支援している大人にとっても、新鮮な感性が呼び覚まされていることに気付かされます。

子どもの心が動く時、大人や地域が変わっていきます。どのような相手とも自然に垣根をこえて関わり合いを創り出す子どもたち。新たな出会いを楽しみ自分をつくる学びに浸る子どもたち。その様子を見ている大人や社会が、何かに気付き変わっていきます。

時に地域そのものも変化させる可能性を含む教育連携。子どもの内に宿る宝に大いに励まされます。